

日本教育方法学会

第38回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 9月22日・日	8 : 30	受 付 開 始									
	9 : 30	課 題 研 究 I 幼稚園教育の遊び中心の教育から小学校における生活科、さらに総合的学習へと問題解決的学習の発展を構想することは誤りかーゆとり教育の再検討ー					課 題 研 究 II 指導要録の改訂と教育評価の問題				
	11 : 30										
	11 : 40										
	12 : 30	総 会									
	13 : 30	休 憩 (昼食)									
		自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9	自由研究 10
	15 : 30										
	15 : 50										
		シ ン ポ ジ ウ ム 教科と総合的学習によって育む新しい学力のあり方									
18 : 20											
18 : 30											
20 : 00	会 員 懇 親 会										

第 二 日 9月23日・月	9 : 00	受 付 開 始									
	9 : 30	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14	自由研究 15	自由研究 16	自由研究 17	自由研究 18	自由研究 19	自由研究 20
	12 : 00										
	13 : 00	休 憩									
		課 題 研 究 III 学校教育における「臨床」研究を問い直す				課 題 研 究 IV インターネットを利用した新しい学び			課 題 研 究 V 中学校授業実践の研究ー教科と総合的学習で今どんな学力をつけるのかー		
	15 : 00										

2002年 9月22日(日)・9月23日(月)

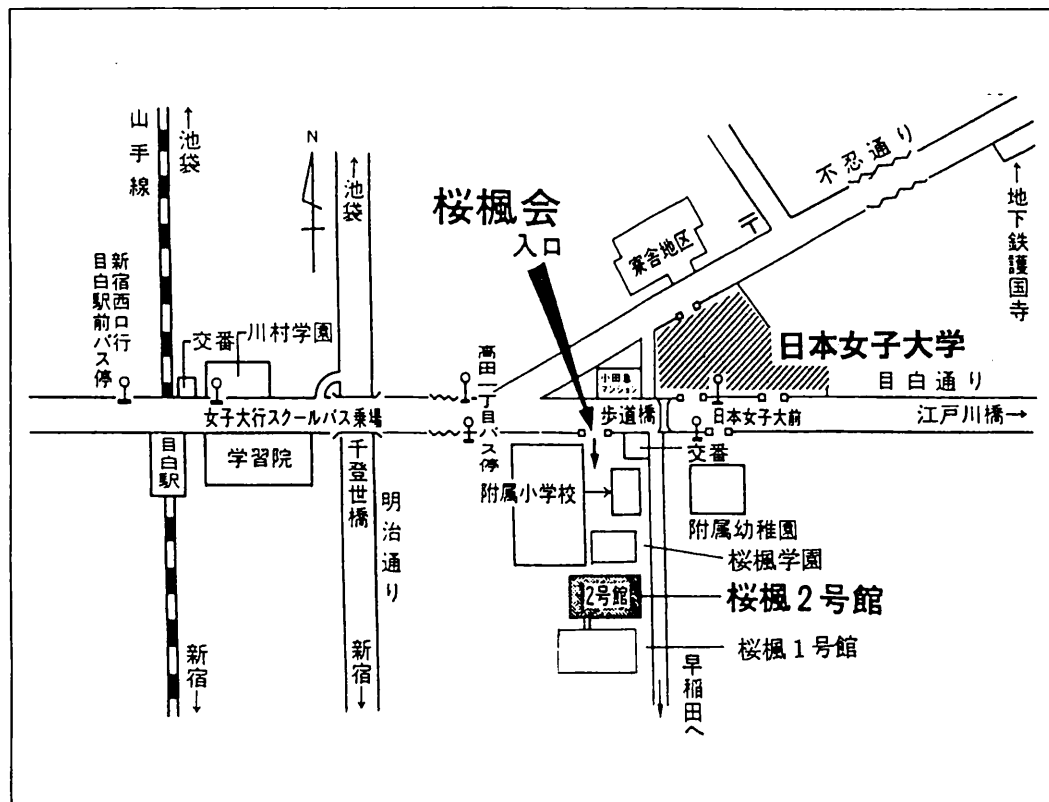
於 日本女子大学 (目白キャンパス)

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、日本女子大学目白キャンパスです。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：大会第1日目(9月22日・日)は8:30、第2日目(9月23日・月)は9:00からです。
受付は八十年館地下1階ロビーで行います。
 - ・大会参加費(発表要旨集録代を含む)は、一般会員3,500円、学生会員2,500円です。
 - ・当日会員(臨時会員)もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費(一般会員8,000円、学生会員6,000円)を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法31』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。詳しくは、14頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：両日とも生協食堂が営業しておりませんので、受付にて弁当券を販売する予定です。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4頁の「会場配置図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名は、「発表申込用紙」に記入された順序によります。また、○印は口頭発表者です。
5. 会場校連絡先：〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

なお、大会に関するお問い合わせは、学会事務局(TEL. 0824-24-6744)にお願いいたします。

日本女子大学目白キャンパスは、全館禁煙となっております。
喫煙は、灰皿の設置してある所定の喫煙場所をお願いいたします。



日本女子大学目白キャンパスへの交通手段については、下記をご参照ください。

- ・JR 山手線 目白駅前より、「新宿駅西口駅」「椿山荘」行き都バス（白61）、「日本女子大前」下車（5～10分、料金200円）

注意：スクールバスは日曜、祝日とも運行していません。

- ・JR 山手線 目白駅下車、徒歩約15分。
- ・営団地下鉄有楽町線 護国寺駅下車、徒歩約10分。

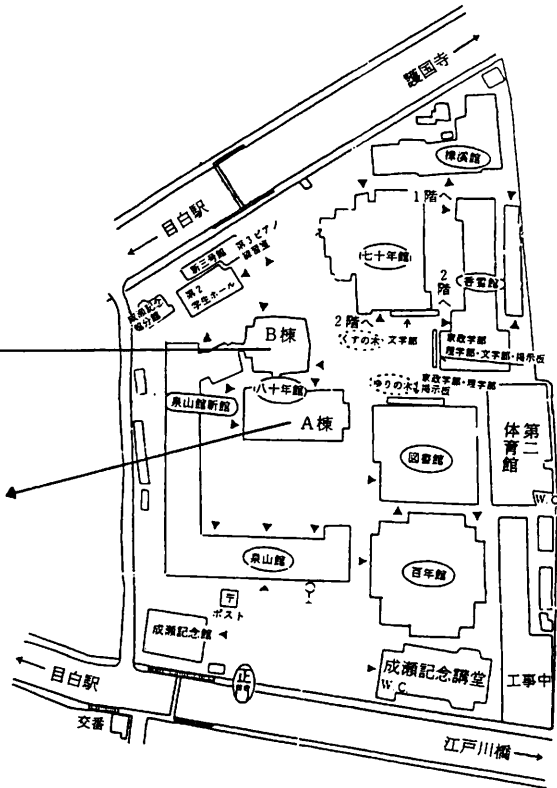
- ・目白駅からタクシー利用の場合、日本女子大学正門まで5分程度です。
- ・池袋駅東口からタクシー利用の場合、日本女子大学正門まで10～15分程度です。

注意：護国寺駅からはタクシーがひろいにくいのでご注意ください。

〈会場配置図〉

5 F	課題研究・総会・シンポジウム
4 F	自由研究
3 F	
2 F	
1 F	会員控室・理事控室
B F	

8 F	
7 F	
6 F	
5 F	課題研究・自由研究
4 F	
3 F	課題研究・自由研究
2 F	
1 F	事務局・自由研究
B F	



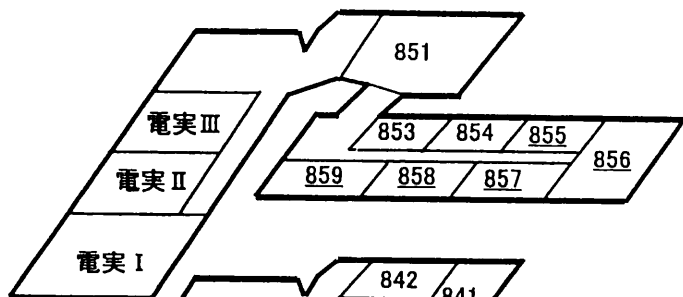
会場配置

- ・課題研究Ⅰ・Ⅲ：833室
- ・課題研究Ⅱ・Ⅴ：856室
- ・課題研究Ⅳ：851室
- ・会員総会・シンポジウム：851室
- ・自由研究Ⅰ・Ⅻ：814室
- ・自由研究Ⅱ・Ⅽ：815室
- ・自由研究Ⅲ・Ⅾ：816室
- ・自由研究Ⅳ・ⅰ：817室
- ・自由研究Ⅴ・ⅱ：832室
- ・自由研究Ⅵ・ⅲ：835室
- ・自由研究Ⅶ・ⅳ：836室
- ・自由研究Ⅷ・ⅲ：858室
- ・自由研究Ⅸ・ⅳ：859室
- ・自由研究Ⅹ・ⅲ：842室

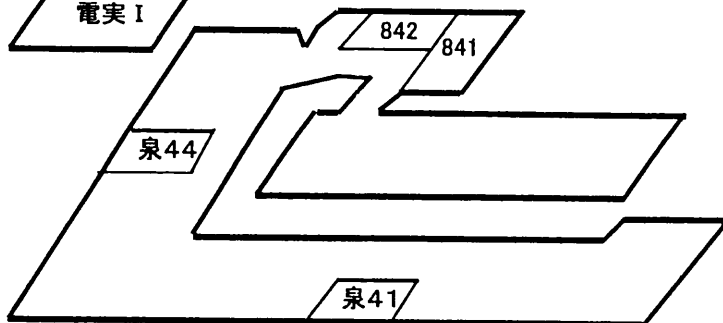
- *会員控室：812室 お茶などを用意しております。
- 理事控室：811室
- 事務局：813室

- *会員懇親会は、「桜楓2号館」（社団法人日本女子大学教育文化振興会桜楓会内）で開催いたします。

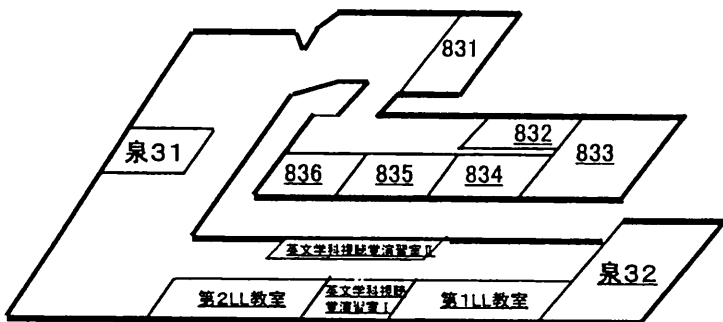
5階



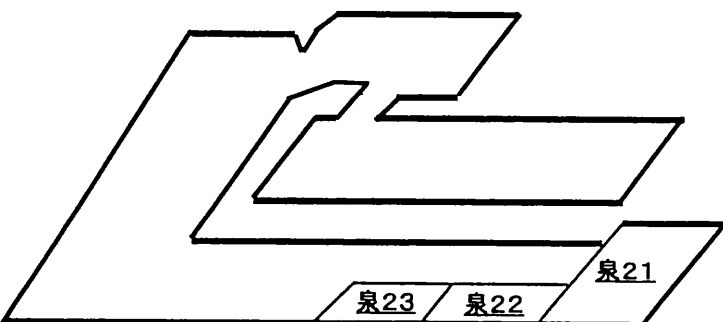
4階



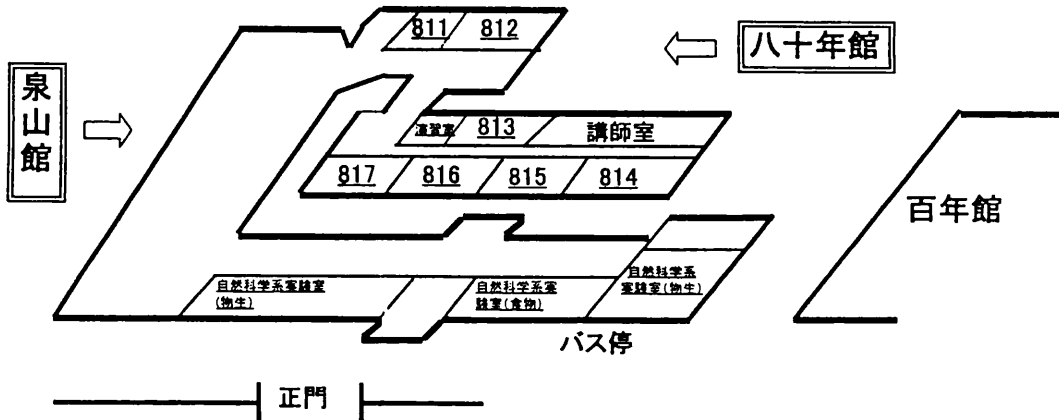
3階



2階



1階



9月22日(日) 9:30～11:30

課題研究 I

幼稚園教育の遊び中心の教育から小学校における生活科、さらに総合的学習へと問題解決的学習の発展を構想することは誤りかーゆとり教育の再検討ー

(833室)

コーディネーター

小川 博久(日本女子大学)

司会者

小川 博久(日本女子大学)

神田 伸生(鶴見大学)

提案者

- | | | |
|-----|-------------------|---|
| 内 山 | 隆(東京学芸大学附属世田谷小学校) | 子どもにとって必要な学びの経験とは ……………25 |
| 岡 | 健(大妻女子大学) | 「課題」を巡る教師と子どものやりとりからみる
「ゆとり教育」の再検討 ……………26 |
| 師 岡 | 章(白梅学園短期大学) | ゆとりの教育は幻想か
ー保育から見る幼小間の教育の連続性ー ……………27 |

(設定趣旨)

現在、総合的学習の時間に対する世の中の批判は厳しい。特に教育界の外から学力低下を批判する声は大きい。そして文部科学省もこの総合的学習が学力低下につながらないようにするための施策をいろいろと打っている。しかしそれは、文部科学省が総合的学習の時間の設立に対し、既にその成果を疑問視しているかの印象を与え、現場の動揺を招いている。学会としては、そうした状況に対する正しい認識を確立する努力をするべきであり、現在のゆとりの教育に問題があるとすればそれはどこにあるのか、それをのりこえるための課題はなにか、どうすればそののりこえは可能なのか、それぞれの現場をみている研究者の意見を聞くことで、この問題への追求を深めたい。

9月22日(日) 9:30～11:30

課題研究 II

指導要録の改訂と教育評価の問題

(856室)

コーディネーター

天 野 正 輝(龍 谷 大 学)

司会者

天 野 正 輝(龍 谷 大 学)

寺 尾 慎 一(福 岡 教 育 大 学)

提案者

- | | | |
|----------------------|---|----|
| 陣 川 桂 三(元福岡市教育委員会) | 評価規準を生かした指導と評価の一体化
～その効果と限界～ | 28 |
| 田 中 耕 治(京 都 大 学) | 改訂指導要録の意義と課題 | 30 |
| 寺 西 和 子(愛 知 教 育 大 学) | 確かな学力と豊かな学びのための評価
－評価基準の具体化・共有化・精錬化－ | 31 |

(設定趣旨)

指導要録の改訂、通知表の改善、授業における評価の工夫・改善等、教育評価にかかわる課題は、今日、多くの教育関係者の関心を集めている。教育評価の現状をどう把握し、教育評価の本質をどのように考え、どのような方面に向けて改善していくかは緊急の課題となっている。本課題研究では、昨年に引き続き、次のような課題をもとに論議を進める。

1. 指導と評価の乖離の要因はどこにあるのか。
2. 指導と評価の一体化を図る方法・工夫は何か。
3. 目標に準拠した評価をどのように進めるか。
4. 「観点別学習状況」と「評価」との関係をどう把握するか。
5. 指導要録と通知表と授業との関係をどう考えるのか。

9月22日(日) 午後

自由研究 1

(814室)

司会者 高田 喜久司(上越教育大学)
久田 敏彦(大阪教育大学)

- 13:30 ① ドイツ新教育運動における児童から (Vom Kinde aus) の教育に関する一考察
ー B. オットーの実践を中心にー32
内 藤 由佳子(大阪市立大学大学院)
- 14:00 ② E. D. ハーシュの「コア・カリキュラム」に関する一考察
ー公共性の構築に焦点をあててー33
谷 川 とみ子(京都大学大学院)
- 14:30 ③ コア・カリキュラムの再構成
ー活動中心の総合的な学習カリキュラムー34
金 馬 国 晴
(法政大・放送大・日本社会事業大学非常勤講師)
- 15:00 ④ アメリカ進歩主義教育におけるモダン・スクールについての一考察35
塩 路 晶 子(鳴門教育大学)

自由研究 2

(815室)

司会者 市 川 博(横浜国立大学)
藤 原 幸 男(琉球大学)

- 13:30 ① 構成主義における「体験」の問題
ー生活科への構成主義の可能性ー36
高 木 啓(広島大学大学院)
- 14:00 ② 「プロジェクト・カリキュラム」における教師の指導(guidance)に関する一考察
ー E. Collings の実験を手がかりにー37
陳 曦(大阪市立大学大学院)
- 14:30 ③ キルパトリックのモンテッソーリ批判
ープロジェクト法との関係でー38
杉 浦 英 樹(上越教育大学)

9月22日(日) 午後

自由研究 3

(816室)

司会者 豊田 ひさき (大阪市立大学)
吉田 武男 (筑波大学)

- 13:30 ① 複式教授法における自学論の検討
－小林佐源治の複式教授法を中心として－39
深谷 圭助 (名古屋大学大学院)
- 14:00 ② 松田一橘の日本語教育40
竹本 英代 (日本学術振興会特別研究員)
- 14:30 ③ 学問としての唱歌科と西洋楽譜の導入
－神田孝平の「音律の学」の検討を中心に－41
平田 祥彦
- 15:00 ④ 子どもの「疑問」を育てる学習指導
－神戸伊三郎の理科学習指導実践の分析－42
岩崎 紀子 (福島大学)

自由研究 4

(817室)

司会者 藤田 昌士 (帝京平成大学)
船越 勝 (和歌山大学)

- 13:30 ① 戦前生活綴方における「集団的合評作業」の分析
－教育評価の観点から－43
川地 亜弥子 (京都大学大学院)
- 14:00 ② 1920年代における修身科補完の動向
－道德教育改造運動の一断面－44
佐藤 高樹 (東北大学大学院)
- 14:30 ③ 奈良女高師附小「学習法」成立前夜
－大正10年度「学級教育経営」「学級教育功程」に見る教育方法－45
松本 博史 (神戸大学大学院)
- 15:00 ④ 明治後期東京高等師範学校附属小学校における家事教授形成に関する一考察46
飯田 範子 (筑波大学)

9月22日(日) 午後

自由研究 5

(832室)

司会者 上 野 ひろ美 (奈良 教 育 大 学)
橋 川 喜美代 (鳴 門 教 育 大 学)

- 13:30 ① 相互依存的多様性への一考察
ーカッシーラーのシンボル形式を手がかりにー47
岩 山 昌 治 (東 京 大 学 大 学 院)
- 14:00 ② 臨床教育学における情動へのアプローチ48
大 本 紀 子 (広 島 大 学 大 学 院)
- 14:30 ③ 親と子どもの異文化体験におけるアイデンティティの研究
ー異文化についての先行研究の批判的検討とその方法論的意味ー49
具 守 珍 (日 本 女 子 大 学 大 学 院)
- 15:00 ④ 保育の方法としての「身体知」(1)
ー保育者の身の置き所が意味するものー50
根 津 明 子 (埼 玉 純 真 短 期 大 学)

自由研究 6

(835室)

司会者 中 村 亨 (西 南 女 学 院 大 学)
西 岡 けいこ (香 川 大 学)

- 13:30 ① 幼児のピアノ指導において、幼児の表現性を保障する事は可能か
ーメソッドと自己表現の葛藤をどう乗り越えるかー51
奥 村 直 子 (日 本 女 子 大 学 大 学 院 研 究 生)
- 14:00 ② 英国20世紀初頭以降のドラマ教育論の方法論的展開
ードラマティック・プレイの捉え方を中心にー52
佐 野 美 奈 (佐 野 短 期 大 学).
- 14:30 ③ 思考力育成プロセスにおける意味生成の方法53
岡 本 信 一 (広 島 大 学 大 学 院 研 究 生)
- 15:00 ④ 文化財を媒介とする教師の対幼児コミュニケーションにおける「ノリ」の意味
ー意味的世界共有の前提としてー54
岩 田 遵 子 (県 立 新 潟 女 子 短 期 大 学)

9月22日(日) 午後

自由研究 7

(836室)

司会者 木内 剛(成蹊大学)
土井 捷三(神戸大学)

- 13:30 ① 「学びからの逃走」をはかる中学生についての一考察
－子どもの「学び」の実態を通して－55
古家 正暢(東京都足立区立青井中学校)
- 14:00 ② 「学力」保障問題の実践的課題とその対応
－“わかる”ことと“できる”ことの統一をめざした子どもが創る「わり算
(筆算)」学習－56
小川 修一(川越市立泉小学校)
- 14:30 ③ 「学びの共同体」づくりと教師の指導性に関する一考察(2)57
三橋 謙一郎(徳島文理大学)
- 15:00 ④ 学力の「質」をどう評価するか
－「評価規準・評価方法」(国研案)の意義と課題－58
庄司 他人男(福島学院短期大学)

自由研究 8

(858室)

司会者 佐久間 亜紀(東京学芸大学)
白石 陽一(熊本大学)

- 13:30 ① ,フランスにおける市民性教育に関する教育方法の原理59
高橋 洋行(早稲田大学大学院)
- 14:00 ② アメリカのミドル・スクールにおける学校・地域・家庭の連携による教育支援
システムの創造
－サービス・ラーニングに関する考察を中心に－60
岡村 千恵子(大阪市立大学大学院)
- 14:30 ③ イギリスにおけるコミュニティ教育に関する一考察
－EPAのリバプール・プロジェクトの検討を中心に－61
二宮 衆一(京都大学大学院)
- 15:00 ④ 島小の教育実践－地域と学校－62
狩野 浩二(鹿児島大学)

9月22日(日) 午後

自由研究 9

(859室)

司会者 長尾彰夫(大阪教育大学)
山本朝彦(鳴門教育大学)

- 13:30 ① 少子化対策について考える
～子育てのコスト感をエンゼルプランは削減できるのか～63
松永愛子(日本女子大学大学院)
- 14:00 ② 総合的学習における福祉カリキュラムのあり方64
齋藤義雄(栃木県那須郡烏山町立烏山中学校)
- 14:30 ③ 美術科を基底とした総合学習の方法論的意義
～教科間のつながりに浮上する学びのリアリティ～65
柳沼宏寿(福島市立清水中学校)
- 15:00 ④ 「モノづくり」から「信頼される学校づくり」へ
～総合的な力をつけながら未来を拓いた青年たち～66
平野榮一(福岡県立田川工業高等学校)

自由研究10

(842室)

司会者 黒上晴夫(関西大学)
子安潤(愛知教育大学)

- 13:30 ① カナダ・オンタリオ州におけるメディア教師養成・支援の諸形態
～メディア・リテラシー概念の普及過程～67
上杉嘉見(名古屋大学大学院)
- 14:00 ② メディア・リテラシーの系譜に関する検討
～批判的教育学の立場から～68
○小柳和喜雄(奈良教育大学)
山内祐平(東京大学)
木原俊行(大阪市立大学)
堀田龍也(静岡大学)
- 14:30 ③ Eメール交換をととした異文化間学習69
木下百合子(大阪教育大学)
- 15:00 ④ インフォメーション・スキル教育と学校図書館の発展
～アメリカの場合～70
原勝子(南九州大学)

9月22日(日) 15:50～18:20

シンポジウム

教科と総合的学習によって育む新しい学力のあり方

(851室)

司会者

小 泉 祥 一(東 北 大 学)

杉 山 明 男(神戸大学名誉教授)

提案者

片 上 宗 二(広 島 大 学) 「協働」と「挑戦」による新しい知の創造
—21世紀の学校教育に求められる新しい学力のあり方— ……………71

松 下 佳 代(京 都 大 学) <二つの学力> 論を超えて ……………72

吉 崎 静 夫(日 本 女 子 大 学) 教科学習と総合的学習で育てる学力 ……………74

指定討論者

谷 川 彰 英(筑 波 大 学)

中 野 和 光(福 岡 教 育 大 学)

(設定趣旨)

本年4月より、学校週5日制および新学習指導要領が本格的にスタートし、各学校現場では、総合的学習を含む新しい教育課程が編成され、実施されている。従来とは違って、各学校に教育課程編成上の相当な裁量が認められた中での取り組みには、意欲的、独創的な試みとともに、教育実践上のさまざまな戸惑いも生まれてきている。

それぞれの学校に、教育課程と教育実践における個性と責任を求めるこのような試みは、本来、時間的に長いスパンで見守っていくことが基本的に必要である。

しかし、現在の時点で、新教育課程によって形成されている子どもの学力とは実際どのようなのか、その実態を実践的、実証的に検討することは、今後の学校における教育実践を改善していく上できわめて意味のあることである。

そこで、本シンポジウムでは、現在、新教育課程によって形成されている子どもの学力の実態を実践的、実証的に吟味するとともに、教科と総合的学習によって育む新しい学力のあり方について検討したい。

インフォメーション

●会員懇親会

日 時 : 第1日(9月22日(日)) 18:30から
会 場 : 桜楓2号館(社団法人日本女子大学教育文化振興会桜楓会内)
会 費 : 4,000円(予定)

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●会員総会

日 時 : 第1日(9月22日(日)) 11:40~12:30
会 場 : 851室
主な議題 : 会務報告
2001年度決算
2003年度予算案
次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第31巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

自由研究11

(817室)

司会者 阿部好策(新潟大学)
清水毅四郎(滋賀大学)

- 9:30 ① 1920年代のアメリカ社会科における子ども観とカリキュラム77
赤沢早人(京都大学大学院)
- 10:00 ② デューイ・スクール (Dewey School) における実践の特徴に関する一考察
ー初期(1896-98年)の活動例を中心としてー78
森久佳(大阪市立大学大学院)
- 10:30 ③ プロジェクト授業の原理と方法79
竹内元(広島大学大学院研究生)
- 11:00 ④ 生活科に見られる総合的な学習指導
ー埼玉県草加市における生活科授業実践を手がかりにー80
峯岸由治(さいたま市立栄和小学校)
- 11:30 ⑤ 地域および学校における教育課程経営システムの構築に関する調査研究81
小泉祥一(東北大学)

自由研究12

(814室)

司会者 大槻和夫(安田女子大学)
澤本和子(日本女子大学)

- 9:30 ① 教師にとって教材とは何か
ーアーノルド・ローベル作『おてがみ』の授業実践にみる考察ー82
赤木則子(香川大学大学院)
- 10:00 ② 西郷竹彦の文学教育理論に関する一考察
ー「文芸学」との関係に焦点をあててー83
樋口太郎(京都大学大学院)
- 10:30 ③ 「文学表現の言葉」(大江健三郎)の追求を通して、子どもが自ら判断をAから
Āに変える授業方法の実証的研究(その1)
ー『アレクサンダとぜんまいねずみ』の授業による方法原則の検証(授業
記録・ビデオ)ー84
石井俊樹(名古屋市立田代小学校)
- 11:00 ④ 文学表現の言葉の追求を通して、子どもが自ら判断をAからĀに変える授業方
法の実証的研究(その2)
ー『大造じいさんとガン』(5年)の授業による方法・原則の検証(授業
記録・ビデオ)ー85
森川拓也(青山町立阿保小学校)
- 11:30 ⑤ 授業研究の発生論的アプローチ(1)
ー授業レベルでの発達を決定する教材の選択・文学教材の場合ー86
宮坂義彦(ノートルダム清心女子大学)

自由研究13

(816室)

司会者 庄 司 他人男(福島学院短期大学)
山 田 綾(愛知教育大学)

- 9:30 ① 授業の多層的な構造の解明
—小学校5年生の家庭科における学習課題の構成に着目して—87
金 田 裕 子(東京大学大学院)
- 10:00 ② 授業における生徒の記述のナラティブ分析
—高校家庭科の「家族」の学習に基づいて—88
小 高 さほみ(お茶の水女子大学大学院)
- 10:30 ③ 外国の授業における子どもの発言の中間項への変換手順
—ドイツの政治科と事実科の事例を中心に—89
的 場 正 美(名古屋大学)
- 11:00 ④ 中間項を用いた授業分析事例
—経験と想像にもとづく話し合い場面の分析—90
○石 原 正 敬(東海学園大学非常勤講師)
柴 田 好 章(名古屋大学)
- 11:30 ⑤ 授業分析における中間項の設定と授業諸要因91
○柴 田 好 章(名古屋大学)
的 場 正 美(名古屋大学)
石 原 正 敬(東海学園大学非常勤講師)

自由研究14

(815室)

司会者 安 彦 忠 彦(早稲田大学)
須 田 勝 彦(北海道大学)

- 9:30 ① 算数科で利用されてきた具体物の問い直し92
石 井 康 博(目黒区立東根小学校)
- 10:00 ② 数学の総合学習化とSSH(スーパーサイエンスハイスクール)を考える
—筑波大駒場中・高の事例を通して—93
井 上 正 允(筑波大学附属駒場中・高等学校)
- 10:30 ③ 教育目標設定の新しい枠組み
—ブルーム・タキソノミーから「改訂版タキソノミー」へ—94
石 井 英 真(京都大学大学院)
- 11:00 ④ 英国中等教育における目標と評価の関係
—キー・ステージ4の資格試験を中心に—95
西 岡 加名恵(鳴門教育大学)
- 11:30 ⑤ 「総合的な学習」の目標に関する認知96
進 藤 聡 彦(山梨大学)

自由研究15

(832室)

司会者 白井嘉一(福島大学)
山下政俊(島根大学)

- 9:30 ① 地域の人・文化・自然を活用した授業の類型化
ーある小学校の5年間の事例分析に基づいてー97
千 鎬 誠(名古屋大学大学院)
- 10:00 ② 高度経済成長期の四日市市における公害教育の展開
ー教師たちによるカリキュラム開発に注目してー98
土井妙子(一橋大学大学院)
- 10:30 ③ 家庭科のカリキュラム開発に関する基礎的研究(Ⅲ)
ー米国 N. J. 州 “Homemaking in the Elementary Schools” を手がかりと
してー99
○信 清 亜希子(東京都八王子市立浅川小学校)
佐藤 園(岡山大学)
- 11:00 ④ 環境学習教材の開発
ー単元「森林と水と生活」(小学校5年)の学習書試案ー100
高山芳治(岡山大学)
- 11:30 ⑤ 漁師の植林活動は教科書でどのように描かれているか
ー現代魚附林思想と環境科学教育ー101
若菜 博(室蘭工業大学)

自由研究16

(842室)

司会者 三上勝夫(北海道教育大学)
諸岡康哉(金沢大学)

- 9:30 ① いわゆる「よい子」の思考の特徴102
山川法子(名古屋大学大学院)
- 10:00 ② わが国における第二次世界大戦後の保育実践をさぐる
ー保育者の語りを通して明らかになる点はなにかー103
田 甫 綾 野(日本女子大学大学院)
- 10:30 ③ 子どもの作文における生活表現の深化に関する研究
ー小学校2年生生活科の事例の考察を通してー104
北島信子(桜花学園大学)
- 11:00 ④ 戦後沖縄の児童文化・児童文学に関する研究105
齋 木 喜美子(神戸商船大学非常勤講師)

9月23日(月) 午前

自由研究17

(835室)

司会者 高田 清(福岡教育大学)
中田 基昭(東京大学)

- 9:30 ① 集団指導におけるヘゲモニー論の意義106
梶岡 寛之(広島大学大学院研究生)
- 10:00 ② 「自己」・「他者」理解における認識の構造
～「他者」の「差異」を尊重するための一考察～107
高橋 舞(立教大学大学院)
- 10:30 ③ 知的障害児の教育実践における自己決定の検討108
手島 由紀子(兵庫教育大学大学院連合)
- 11:00 ④ 反教育学における「教育的関係」把握の特質とその前提109
助川 晃洋(宮崎大学)
- 11:30 ⑤ 私学教員(中高)の教科書観110
小池 俊夫(財日本私学教育研究所)

自由研究18

(858室)

司会者 岩垣 攝(千葉大学)
山口 満(筑波大学名誉教授)

- 9:30 ① 批判的リテラシーにみる「読むこと」の政治性
－「批判的」の意味の検討をととして－111
竹川 慎哉(名古屋大学大学院)
- 10:00 ② リテラシー教育の転換
－「批判」から「対話」へ－112
黒谷 和志(広島大学大学院研究生)
- 10:30 ③ 270名クラスの授業『特別活動』におけるコミュニケーション育成の試み
－桜美林大学における実践から－113
○小島 勇(東京電機大学)
岩堀 菜穂子(セレンティ臨床教育研究室)
- 11:00 ④ 学校の原風景としての語りの構成114
○藤江 康彦(東京大学大学院)
○本山 方子(奈良女子大学)

自由研究19

(836室)

司会者 桂 正 孝 (宝塚造形芸術大学)
三 橋 謙一郎 (徳島文理大学)

- 9:30 ① 全国同和教育研究協議会における四認識提起の今日的意義に関する一考察
～「総合的な学習」との関連の視点から～115
峰 司 郎 (福岡教育大学大学院)
- 10:00 ② 参加と共同による平和教育
～アフガニスタン問題についての「リレー意見表明」の実践から～116
井ノ口 貴 史 (大阪府立加納高等学校)
- 10:30 ③ 教師の専門性といじめ問題
～いじめる子ども達の指導をこそ～117
麻 生 信 子 (筑紫女学園大学非常勤講師)
- 11:00 ④ 死を通して生を考える教育の重要性ーその1 小学生における実践を通してー118
○藤 田 康 郎 (和 光 小 学 校)
中 村 博 志 (日 本 女 子 大 学)
中 村 源 哉 (和 光 小 学 校)
鈴 木 康 明 (国 士 館 大 学)
- 11:30 ⑤ 死を通して生を考える教育の重要性
ーその2 今後の課題ー119
○中 村 博 志 (日 本 女 子 大 学)
藤 田 康 郎 (和 光 小 学 校)
中 村 源 哉 (和 光 小 学 校)
鈴 木 康 明 (国 士 館 大 学)

自由研究20

(859室)

司会者 田 上 哲 (香 川 大 学)
山 田 昇 (共愛学園前橋国際大学)

- 9:30 ① 教職課程履修生の授業イメージの多様性
ー比喩生成課題の分析を通してー120
○深 見 俊 崇 (大阪市立大学大学院)
木 原 俊 行 (大 阪 市 立 大 学)
- 10:00 ② 「転機」を視点とする教師の発達過程に関する事例的研究
ー年配教師のライフストーリーの記述からー121
○藤 田 美 保 (大阪市立大学大学院)
木 原 俊 行 (大 阪 市 立 大 学)
- 10:30 ③ 教師教育における「採用前研修」に対する学生と現職教師の意識122
姫 野 完 治 (大 阪 大 学 大 学 院)
- 11:00 ④ 授業評価・設定項目に対する学生の重みづけの差異と授業改善の方策123
斎 藤 裕 (県立新潟女子短期大学)
- 11:30 ⑤ 日本語話者のための英語音声指導に関する研究
ー音楽を通じた発音訓練の効果についてー124
○岩 佐 玲 子 (恵 泉 女 学 園 大 学)
○ケン・フジオカ (恵 泉 女 学 園 大 学)
○有 馬 弥 子 (恵 泉 女 学 園 大 学)

9月23日(月) 13:00～15:00

課題研究Ⅲ

学校教育における「臨床」研究を問い直す

(833室)

コーディネーター

湯 浅 恭 正(香 川 大 学)

司会者

奥 平 康 照(和 光 大 学)

湯 浅 恭 正(香 川 大 学)

提案者

秋 田 喜代美(東 京 大 学) 心理化する臨床研究から関係生成型実践研究へ …125

今 泉 博(練馬区立光が丘第三小学校) 現代の子どもたちと、どう接していくか
—子どもたちと共に学びを創る— …127

折 出 健 二(愛 知 教 育 大 学) 子どものシンギュラリティとコモナリティを重視する …128

(設定趣旨)

現代社会における学校や子ども・青年の状況の変化に応じて、教育学・教育実践研究における「臨床」の役割が問われている。教育実践の現場を直接に考察の対象とする認識のあり方を「臨床的」とするならば、教育方法学は「臨床の知」といえようが、今日問題になっている「臨床」という視点は、そこに留まるものではない意味を持っているであろう。一方、今日の学校現場に対しては、スクールカウンセラーの導入やサポートチームの体制づくりなど、教育相談・教育臨床の役割がますます重視され、教育実践に大きな影響を与えてきている。また、近年の臨床教育学研究の発展は、教育学・教育方法学研究のあり方を「臨床」における専門性・関係性という視点から問い返そうとしている。

本課題研究は、こうした状況を踏まえて、学校教育において「臨床」研究は子どもの発達支援に対してどのような役割を持ち、またどのような視点で進められるべきかについて検討する。学校論・教師論を含めた広い視野から学校教育における「臨床」の役割を問い直しながら、「臨床」研究をどのように発展させるべきかを議論したい。

課題研究Ⅳ

インターネットを利用した新しい学び

(851室)

コーディネーター

水越敏行(関西大学)

司会者

水越敏行(関西大学)

渡邊光雄(筑波大学)

提案者

中川一史(金沢大学) 情報教育の今日的課題
～情報活用の実践力と7つのキーワード～ ……130

野中陽一(和歌山大学) 交流学习における子どもの学びと教師の役割 …132

本田敏明(茨城大学) 学びにおける人・自然・機械の一体化
－社会的構成主義の視点から－ ……134

(設定趣旨)

第36回(札幌), 第37回(岡山)に続いての課題研究になる。これまでの提案や協議を継続しながらも, 今回は特に次のような点にもふれる課題研究としたい。

1. 交流学习がもたらす新しいコミュニケーションの可能性と, 社会性や情報モラルの教育は。
2. 公共性と私事性, 一般性と個別性, 全体と個など, 近代学校が常に背負ってきた二項対立的なものを, インターネット活用でいかに融合させられるか。
3. 子どもたちに「調べて, 選んで, まとめて, 伝えて, 比べて～」というような自律的な自己学習能力をどう形成していくか。できれば事例を交えて。
4. こうした ICT 教育を展開していく上で, 教師に要請される新しい資質や指導性を問う。

9月23日(月) 13:00～15:00

課題研究 V

中学校授業実践の研究

—教科と総合的学習でどんな学力をつけるのか—

(856室)

コーディネーター

柴田 義松(東京大学名誉教授)

司会者

柴田 義松(東京大学名誉教授)

鶴田 清司(都留文科大学)

提案者

阿部 昇(秋田大学)

高橋 喜代治(埼玉県三芳中学校)

子どもたちに情報吟味力を身につけさせる

—国語科と総合的学習の連携の可能性— ……136

指定検討者

梅原 利夫(和光大学)

高木 まさき(横浜国立大学)

(設定趣旨)

昨年、岡山大学で行なった小学校授業研究のある意味での続きである。今回は、中学校国語の授業と総合的学習とを結びつけた実践の検討を行なう。

教科書の説明的文書の読解・吟味を発展させて環境問題等の総合的学習につなげていく授業実践を検討する。

この授業づくりに共同研究者として協力してきた阿部昇氏から授業づくりの視点、具体的な授業案、授業記録(ビデオ等を含む)の説明をしてもらい、授業者(高橋氏)からも実際の授業の背景、実施状況等について説明を受ける。指定討論者には、実際の授業観察を基にしてそれぞれの立場から意見を述べてもらう。これらを基にして中学校における教科と総合的学習のあり方について活発な議論が展開されることを期待したい。

授業者：高橋 喜代治(埼玉県三芳中学校)

教材：中学校国語科 説明文教材『魚を育てる森』

日時：9月20日(金)(予定)

授業参観希望者は、学会事務局(電話0824-24-6744)へ9月5日(木)までにお申し込み下さい。なお、人数に制限があるため、希望者全員のご要望にお応えできない場合があることをあらかじめご了承下さい。また、詳細につきましては、後日お知らせしますので、必ず連絡先もお伝え下さいますようお願い申し上げます。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1 9 8 2	(2,600円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 4	(2,400円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,800円)
教育方法15.	実践にとって教授学とは何か	1 9 8 6	(品切れ)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,400円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,900円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(1,942円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,709円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,709円)
教育方法21.	自己学習能力の育成と授業の創造	1 9 9 2	(品切れ)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,806円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,806円)
教育方法24.	戦後教育方法研究を問い直す	1 9 9 5	(2,806円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,903円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,800円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1 9 9 8	(1,960円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	—新学習指導要領の教育方法学的検討—	1 9 9 9	(1,860円)
			(価格は税別)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚 2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2 0 0 0	(1,800円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2 0 0 1	(1,800円)
			(価格は税別)

最新刊・教育方法31

『子ども参加の学校と授業改革』

〈内 容〉

- I. 21世紀の学校と学びのあり方を考える
- II. 授業改革と授業研究方法論の検討
- III. 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚 1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516